

目 次

- ・ 2000年度関東地区第3回研究例会報告
『市立図書館と其事業』をめぐって (奥泉和久)
- ・ 2001年度第1回関東地区研究例会のお知らせ
- ・ 会員のみなさまへ (藤野幸雄先生古希記念事業委員会より)
- ・ 2001年度第18回日本図書館文化史研究会研究集会及び総会お知らせ
オプショナルツアー参加者募集
- ・ 2000年度活動報告/2000会計年度決算報告/2001会計年度予算案
- ・ 入会勧誘/会員名簿訂正表/会員動向
- ・ 事務局より

2000年度 関東地区第3回研究例会報告 (2001年3月17日 法政大学)

『市立図書館と其事業』をめぐって

奥泉 和久

(横浜女子短期大学・総務部)

筆者は、先に「『市立図書館と其事業』の成立と展開」と題して、東京市立図書館報に関し『図書館界』(No. 52, No. 3, 2000. 9)において考察した。本報告では、この内容をもとにして、館報の発行に携わった竹内善作の編集意図などについて言及した。

明治後期に刊行された県立図書館の「報告」や「一覧」「年報」などは、初期の図書館報といえるが、これらは理事者や管理者への報告書の域を出るものではなかった。1908(明治41)年11月に開館した、東京市立日比谷図書館の『東京市立日比谷図書館一覧』(明治41-42、以降継続)も事業報告の形をとった。

1915(大正4)年4月、東京市立図書館は機構改革を実施、これによって日比谷を中心とする市内図書館網が完成した。機構改革以後の時期は、「発展期」とも「黄金時代」とも言われている。その2年後の1917(大正6)年9月、東京市立図書館は『東京市立図書館報』を創刊した。10号まで発行したことが知られているが、現在のところ所在が確認されていない。大正期に入ると「館報」のあり方にも変化が見られるようになった(たとえば佐野友三郎による県立山口図書館の『報告』)。

1921年10月、『市立図書館と其事業』(以下『其事業』)が創刊された。同館報の

編者竹内善作は、創刊に際しタイトルから「東京」の2字を除き、この館報が一東京市立図書館の館報にとどまらず、「一步進んで日本の図書館界を誘導開発」し、「わが公共図書館の将来の標的たらしめよう」との気概を示した。

『其事業』は、東京市立図書館が機構改革を機に実施したサービスの普及と関わって、広報活動の意義とその重要性を示した。閲覧料の無料化、帯出（館外貸出）の実施、開架書架も当時であってはまだ普及の途上にあり、児童サービス、同盟貸附（相互貸借）や問答用箋による回答業務（レファレンスサービス）なども、当時としては画期的なサービスであった。

同館報は、図書館の実務を紹介する記事についてもかなりの紙面を割いた。これは利用者に業務を紹介する、というよりもむしろ図書館をめぐる当時の状況に鑑み、各館が抱える現実の課題に対し、実現化の方向を明示するという意図によったと考えられる。

『其事業』には数多くのテーマ別図書目録が掲載された。これらの「目録」は、児童や地域の利用、社会の変化に対応し、情報提供の機能を十二分に発揮した。『其事業』は、館報の1号に『日比谷図書館児童図書分類目録』（秋季特別号（8号）

1922年10月）を充てた。およそ館報とは見なしがたいほどの50頁からなる完成度の高い「目録」であった。これは東京市立図書館が、都市部の図書館としてはじめて本格的に実施した児童サービスの実態を、より具体化した形で館界に向けて情報発信した一例と見ることができる。地方からこの「目録」を請求する館が多かったことからそのことは推し量れる。テーマ別の「目録」では、この他に「憲政に関する図書目録」（37号 1926年10月）がよく知られている。

そして、この館報が外国の図書館事情を豊富に掲載したのは、たんなる紹介記事としてではなく、わが国の図書館界を先導する東京市立図書館といえども、欧米の図書館のサービスには遙かに及ばないことを示唆するとの狙いがあった。また、今沢慈海、竹内善作によって、図書館実務を中心とする論文が多数掲載された。これには当時の『図書館雑誌』の向こうを張って、図書館員の意識の高揚をはかったとの意図が汲み取れる。

竹内善作は、一橋図書館時代の活躍を今沢慈海に見込まれ、『其事業』の編集のために日比谷に呼び寄せられた。その後、1924年8月には日比谷から浅草に移り、館務の傍らこの館報の編集に携わった。

浅草図書館は当時4万冊台の蔵書にすぎなかったが、ここで竹内は、雑誌の利用、職業別利用、遠距離利用や児童の利用などについて詳細な調査を実施した。職業調査や隣接する区以外からの利用調査は、地域・地域外利用者の動向を知るためであった。また、雑誌の利用は、商業、歓楽街の浅草の地域事情を反映して映画、演劇の分野が上位を占め、その利用数は市内の他館を圧倒した。時勢が絶えず推移し変転する社会状況のなかにあつて、雑誌は「単行本に較べて、比較的新しい知識と事実とを、容易に供給」する。そこで、竹内は、雑誌が「小図書館経営の羅針盤」となるとの結論を得る。

竹内は、公共図書館の経営に欠如しているものは民衆化と社会化であり、現状は公共図書館の郷土化すらおぼつかない、と述べた。この郷土化とは、「種々の複雑

した社会の状態関係等」により「図書館の民衆化」をめざすことを言う。竹内は、一橋から日比谷、浅草へと転じ、社会の変化のなかで地域住民の需要に応じたサービスを提供し、地域に根ざす図書館サービスの実現を目指した。

『其事業』は、そうした竹内の図書館観を強く反映することになり、独自の編集意図を確立することにもなるが、その一方でそのことが原因となって竹内が東京市立図書館を離れることにもなっていた。

[阪田蓉子氏の発表報告につきましては都合により次号に掲載します。]

2001年度第1回関東地区研究例会のお知らせ

日 時 2001年6月16日(土) 13時30分～

場 所 国立国会図書館6階サークル室

報告者 宇治郷毅「現今NDLの課題」

小黑浩司「新カリキュラム下の図書館史教育

—『日本の図書館情報学教育：2000』から—

問い合わせ先：大沼宜規（国立国会図書館）

図書館文化史研究会のみなさまへ

7月初旬に『21世紀図書館情報学の創造的展開』と題する藤野幸雄先生古稀記念論文集を勉誠出版より刊行いたします。半世紀以上にわたり図書館界に身をおき、実務と理論形成にあたられた藤野幸雄先生（前・図書館情報大学副学長）の長年の友人、教え子たちが執筆し、先生に献呈しようとするものです。

予価は1部1万円ですが、図書館文化史研究会のみなさまには、出版社のご好意で2割引きの1部8,000円（送料 300円）でお分けすることができます。入手をご希望の方は、図書館文化史研究会会員であるむねを明らかにし、直接、出版社（連絡先は下記の通り）に予約をお申込みください。

○ 勉誠出版 〒102-0083 東京都千代田区麴4-8-36 第一中村ビル

e-mail: bensey@bensey.co.jp

2001年5月

藤野幸雄先生古稀記念事業委員会 代表 山本 順 一

日本図書館文化史研究会第18回(2001年度)研究集会・総会のご案内

日本図書館文化史研究会では今年度の研究集会・総会を次の要領で開催します。参加者を募集しますので、お誘い合わせの上、多数ご参加ください。1日目の夜に懇親会を行う予定です。

会場：京都大学教育学部第一講義室

(教育学部の地図は<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/access.htm>を参照してください)

参加費：会員(500円)、非会員(1,000円)

懇親会費 5,000円程度 いずれも当日徴収

研究集会・総会スケジュール案

9月8日(土) 1日目

13:00～受付

13:20～開会挨拶等

13:30～14:30 発表1 垣口弥生子「大阪府立図書館と今井貫一」

14:30～15:30 発表2 志保田努『記述独立方式』と森耕一：非基本記入目録方式の成立」

15:30～15:40 休憩

15:40～16:40 発表3 小川徹「書屋再考：日本最古の図書館をめぐって」

16:40～17:30 総会

17:40～ 懇親会

9月9日(日) 2日目

9:30～10:30 発表4 金城まりえ「旧東ドイツの図書館と検閲：旧国立ドイツ図書館の『閉鎖書庫』を一例として(仮)」

10:30～11:30 発表5 吉田右子「20世紀前半期のアメリカ公共図書館論の批判的検討(仮)」

11:30～12:30 昼食

12:30～13:30 発表6 前田稔「パブリック・フォーラムとしての公立図書館：歴史的展開」

13:30～14:00 チャットコーナー

14:00～14:10 休憩

14:10～15:10 質問・討議

15:10 閉会予定

参加希望者は、葉書に氏名、所属、住所、電話番号(あればFAX番号またはe-mailアドレス)と懇親会参加希望の有無を書いて事務局あて申し込んでください。締め切りは8月22日(水)必着とします。

事務局：

石井 敬三

★ 図書館文化史研究会 2001年研究集会オプションツアー

来る9月8日～9日の研究集会の翌日9月10日(月)にオプションツアーを実施します。見学先として京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター(旧東洋学文献センター)などを予定しています。図書館だけでなく、文化史的な観点から興味深いと考えられる所を何ヶ所か訪れます。清水寺や金閣寺とは一味違った”京都”を訪ねてみませんか。(もう少し詳しい情報は、ニューズレターの次号で。)

移動には、マイクロバスをチャーターする予定です。受付はマイクロバスの乗車定員二十数名が上限となります。満席になり次第受付を終了します。先着順で会員を優先して受付いたしますので、お早めにお申し込みください。

現在、検討中の見学先は陽明文庫、同志社大学(文化財としての校舎など)の他、京都大学付属図書館や京都府立総合資料館などの名前も挙がっています。また、内部には入れませんが、冷泉家時雨亭文庫や伊藤仁斎の古義堂の前へもご案内する予定です。車窓からご案内できる所もたくさんあります。

9月10日(月)午前9:00ごろ出発

午後16:00ごろまでに終了予定

会費：2～3千円程度の予定

マイクロバスチャーター料、駐車料金、謝礼等の実費を参加者の頭割りで計算します。

なお、昼食休憩は本阿弥光悦ゆかりの光悦寺の近くとなります。ご希望により和食のお膳「宿場弁当」(2,000円)の予約を承ります。(光悦寺、源光庵、常照寺などの拝観は各自で休憩時間内をお願いいたします。)

お申し込みは、葉書で事務局あてにお願いいたします。昼食の予約希望の有無を明記してください。受付確認や申込打ち切りの際にご連絡する必要がありますので、e-mailアドレスまたは電話番号(できればFAX番号も)をお書きください。受付確認の連絡を差し上げますので、連絡がありましたら、申込金2,000円を事務局の郵便振替口座あて振り込んでください。(通信欄にOPツアーと明記してください。通常の会費と紛れないように。)申込金はOPツアー会費に充当しますが、御本人の都合で参加されなかった場合は、ご返金できない場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

日本図書館文化史研究会 2000年度活動報告(2000.4-2001.3)

1. 第17回研究集会・総会の開催 参照：『ニューズレター』74(2000.11)

日時 2000.9.9(土)13:00 ～ 10(日)16:00

会場 明治大学リバティータワー

2. 機関誌『図書館文化史研究』17(2000.9)刊行

各執筆者に抜刷約25部提供。

3. 会報『ニューズレター』の編集刊行

No. 72(2000.5) 73(2000.8) 74(2000.11) 75(2001.2)

第75号には会員名簿を付したが、今回新しい試みとしてFAX番号とe-mailアドレスを記載した。(本人が掲載を了承する場合のみ。)連絡を取りたい相手が留守の時や電話口に出られない時に、気兼ねなく発信できるメリットが活かされることを願っている。

4. 研究例会

関東地区例会

(1)2000.6.17(法政大学) 参照：『ニューズレター』73(2000.8)

大沼宜規：明治期における「公文館」と「書籍館」

—歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』(1999.11)に関連して—

小黒浩司：日本図書館協会版『図書及び図書館史』の編集を終えて

小川 徹：絵巻物に見る本と人との関わり

(2)2000.12.16(明治大学) 参照：『ニューズレター』75(2001.2)

三浦太郎：ドイツ図書館界の動向

—ドイツ図書館研究所(DBI)の廃止を中心に—

宮部頼子：転換期における大学図書館運営 —専任・専門職館長の意義—

(3)2001.3.17(法政大学) 参照：『ニューズレター』本号及び次号

奥泉和久：『市立図書館と其事業』をめぐって

阪田蓉子：英国の最近の公共図書館事情

5. 運営委員会の開催

(1)2000.5.3(水)京都タワーホテルロビー

(2)2000.9.9(土)明治大学

6. その他

会員数は、2001年3月末日現在で137名です。2000年4月1日現在の会員数は、

140名であった。2001年3月末時点での、納入者、未納入者の状況は、下記のとおり。

会費	納入者	未納入者	会員（計）
98年度(1998.4—99.3)	136名(99.3%)	1名(0.7%)	137名(100)
99年度(1999.4—2000.3)	139名(97.2%)	4名(2.8%)	143名(100)
2000年度(2000.4—2001.3)	135名(98.5%)	2名(1.5%)	137名(100)
2001年度(2001.4—2002.3)	7名		
2002年度(2002.4—2003.3)	1名		

1998年度会費未納者の1名は、退会とみなし除籍しました。'99会費未納者の4名中3名は退会されました。残る1名は督促の葉書を出したにも関わらず応答がありません。5月のニューズレター発送時までには連絡がなければ退会とみなし、発送をストップします。

日本図書館文化史研究会2000会計年度決算報告(2000.4—2001.3)

[一般会計]

収入の部

前年度繰越金(2000.4.1)	188,857.
郵便局貯金利子(2000.4.1)	194.
会費(年会費3000円)納入(振替)	456,000.
機関誌バックナンバー販売益	1,440.
第17回研究集会残金(懇親会・二次会含む)	7,333.
総計	¥653,824.

支出の部

事務局費	8,404.
ニューズレター(No.72—75)	117,962.
機関誌編集・刊行費	216,867.
研究会運営費	5,800.
小計	(349,033).
積立金(特別会計繰込み)	50,000.
次年度繰越金	254,791.
総計	¥653,824.

[特別会計：20周年記念事業積立金]

前年度(99)繰越金	600,000.
2000年度積立金	50,000.
総計	¥650,000.

監 査 報 告

2000年度の監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

2001年5月13日

監事 井上靖代 印

監事 寒川 登 印

日本図書館文化史研究会2001年度予算（案）

[一般会計]

収入の部

会費	390,000.	2000年度分 (3,000円×130人)
雑費	200.	
前年度繰越金	254,791.	
<u>総 計</u>	<u>644,991.</u>	

支出の部

事務局費	75,000.	
会議費	10,000.	
消耗品費	15,000.	
通信費	25,000.	
交通費	25,000.	
ニューズレター	145,000.	
編集発行費	85,000.	年4回
送料	60,000.	
機関誌刊行費	250,000.	『図書館文化史研究』No.18
編集費	50,000.	入力作業等を含む
発行費用	170,000.	買い取り費用・委託送料を含む
抜刷費用	30,000.	
研究会運営費	36,000.	
研究集会・総会	15,000.	第16回研究集会関係費
研究例会	11,000.	関東及び関西で年3回+α
運営委員会	10,000.	年4回程度
積立金（特別会計）	50,000.	
予備費	88,991.	
<u>総 計</u>	<u>644,991.</u>	

[特別会計：20周年記念事業積立金（1982-2002）]

1996－2000年度積立金	650,000.
2001年度	50,000.
<u>総計</u>	<u>700,000.</u>

入会希望の方をご紹介ください

本会の活動に興味関心を持っている方をご存じでしたら、事務局までご連絡ください。事務局より、ニューズレターのバックナンバーなど資料を郵送させていただきます、入会をお勧めしています。

会員名簿訂正表

2001年2月1日現在の会員名簿に次のような誤りがありましたので、訂正し、お詫び申し上げます。

誤	正

1999年2月15日現在で会員であった方で、2001年2月1日までに退会された方々は次の通りです。

この間の入会者は次の通りです。

原稿募集

- ◇ 「ニューズレター」の原稿を募集しています。
研究に関する情報、書評なんでも結構です。(できるだけワープロで、MS-DOS標準テキストの原稿を)事務局(石井)あてお送りください。

会員動向

新入会員

住所・勤務先変更

事務局より

◎河井弘志会員より、当会に対し次の著書が寄贈されました。どうもありがとうございました。寄贈図書は『ドイツ図書館学の遺産：古典の世界』(2001.4)です(京都大学図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売)。なお同書には、当会機関誌「図書館史研究」第7号掲載の「啓蒙主義から歴史主義へ：F.A.エーベルトの図書館学思想」が収録されています。

昨年9月の研究集会と懇親会の会費に残額が出ておりましたが、研究会会計に繰り入れる旨ご説明する記事を掲載するのを失念しておりました。決算報告で記述した通りです。研究会及び懇親会ご参加の皆様、あしからずご了承ください。

日本図書館文化史研究会 事務局 石井敬三